

測定結果の見かた

〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇年〇〇月〇〇日(〇) 〇〇:〇〇

AGEsスコア
0.44 a.u.

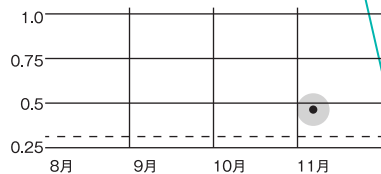
評価

B 

同年代ランキング

30位/100人中

■AGEsスコア履歴■



次回測定時、店内設置の読み取り機にかざすとあなたのAGEs変化を簡単に管理できます▼



見本

AGEsスコア

AGEsの蓄積レベルを表します。
AGEsの蓄積が多いほど、スコアは高く、
蓄積が少ないほど、スコアは低くなります。

評価

同年代と比較して、あなたの蓄積レベルを
評価します。

A 

AGEsの蓄積は同年代の中でも
少ないレベルです。(全体の7%)

B 

AGEsの蓄積は同年代の中で
やや少ないレベルです。(全体の43%)

C 

AGEsの蓄積は同年代の中で
やや多いレベルです。(全体の34%)

D 

AGEsの蓄積は同年代の中で
多いレベルです。(全体の14%)

E 

AGEsの蓄積は同年代の中で
非常に多いレベルです。(全体の2%)

ランキング

同年代の(100人)中で、あなたのスコアが
何位に相当するかを表します。

AGEsスコアが低いほど順位が高くなります。

※独自に臨床研究で収集した数百人のデータベースをもとに、統計的な推定により5段階
評価、および各年代を100人と仮定して1～100位の順位を目安として表示しています。

適切なカラダ管理のために、
継続した測定をおすすめします。

測定の目安
1～2週間に
1回



指で計る、健康・美容の新指標



この測定機は、医療機器ではありません。

測定数値は、健康的な生活をおこなうためのあくまで目安であり、疾患の有無を表すものではありません。

AGEsってなに？

食事などで過剰に摂取した糖とヒトのカラダを主に構成しているタンパク質が結びつくことで体内に生成される老化物質のひとつで、最終糖化産物(Advanced Glycation Endproducts)^{※1}と呼ばれています。加齢によっても生成されるもので、誰の体の中にも存在します。



カラダに影響があるってホント？

ヒトの老化現象や健康に関わる物質として、近年研究が進んでいます。肌、血管、骨などは主に「コラーゲン」というタンパク質からできています。これが糖と結びついて糖化が進むと、本来の働きができなくなり、肌のしわやたるみ、骨や血管の強さを保つ働きを邪魔してしまうと言われています。



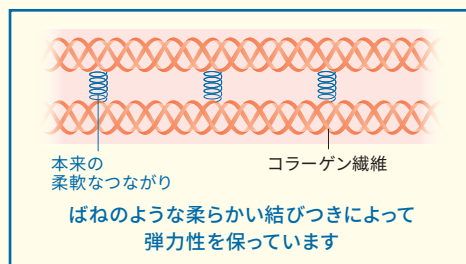
しわ、たるみ、くすみの原因^{※2}

骨や血管の強さを保つのはたらきを阻害

AGEs蓄積の仕組み

コラーゲンは本来、ばねのような柔らかい結びつきによって弾力性を保っています。しかし、AGEsの蓄積が進むと、コラーゲン繊維が結ばれ固くもろくなり、弾力性が低下。その結果、カラダの機能に様々な変化を及ぼしてしまいます。

コラーゲン(肌、骨など)が弾力を保っている状態

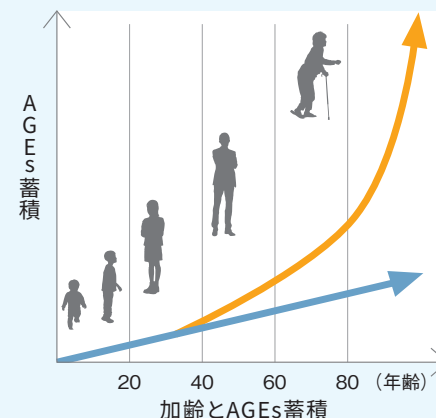


AGEsの蓄積によって弾力性が低下した状態



なぜ今、AGEsが注目されているの？

健康的な生活を送っている人は、加齢にともなうAGEsの蓄積はそれほど多くはありません(健康な老化)^{※3}。しかし、不適切な食生活や生活習慣、運動不足などにより、AGEsの体内での蓄積は増加します(不健康な老化)^{※4-7}。このため、AGEsは生体内における「生活習慣のバイオマーカー」^{※8}とされ、AGEsスコアは、みなさんの「生活習慣の成績表」といえます。そのため、健康や美容業界で注目されています。



※永井竜児ら, Clinician, vol.98, No.476, p.110 (1998).

不健康な老化

不適切な生活習慣

運動不足

代謝の低下

健康な老化

バランスのいい食事

適度な運動

適切な生活習慣

AGEsを減らすにはどうすれば？

AGEsの蓄積レベルは、適度な運動やバランスの良い食生活といった生活習慣の改善や、AGEsのケアに適した食品の摂取などにより低減させることができます。

POINT

ウォーキング程度の運動習慣を身につけましょう。



糖質を摂る前に、できる限り「野菜、海藻」を食べましょう。



糖質の過剰な摂取に気を付けましょう。



※1 Nagai R, et al., Biochem Soc Trans. 31,1438-1440(2003). ※2 Diabetologia. 2006 Oct;49(10):2488-98. ※3 John A, et al., Biochemistry,30, 1205-1210 (1991). ※4 Nagai R, et al., Clinician, vol.98, p.110(1998) ※5 Buongiorno AM, et al., J Endocrinol Invest.31,558-562 (2008). ※6 Beisswenger P J, et al., J Clin Invest.92, 212-217(1993). ※7 Sakata N, et al., Atherosclerosis. 142, 67-77 (1999). ※8 Nagai R, et al., J Clin Biochem Nutr. 55,1-6(2014).